



保坂 悟 議員

防災対策について

防災対策について

質問

市内での災害情報の取得方法の拡充に関して、次の点について伺う。

- ・山間地の携帯電話の利用可能エリアの拡充

- ・ラジオ電波の受信状況
- ・広報無線（防災行政無線）の音声の状況と対応

市長答弁

携帯電話の利用可能エリアについては今年度、西海地区市野々・御前山等を対象としたアンテナ設置を進めている。



伊藤 文博 議員

合併後2期目の最後の1年に当たっての合併効果総活について

質問

合併後2期目の最後の1年に当たっての合併効果総活について

合併から7年が経過し、米田市政も2期目の最終年度となったが、次のことについて現状と課題を伺う。

- ・合併効果の分析について
- ・糸魚川、能生、青海の3地域それぞれの合併前と合併後の現状について
- ・3地域別の課題と対応策
- ・全市的な課題と対応策

市長答弁

当市の合併の目的は、地方

ラジオ電波については、磯部地区に受信状況の良くない場所があり、防災行政無線や戸別受信機の活用をお願いしているところである。

防災行政無線については、定期点検のほか、受信に不具合等があった場合は直ちに修理、改善等を行っている。

まちづくりについて

質問

次のまちづくりについて市の考えを伺う。

- ・地震、津波、豪雪に強い交通網の充実や高齢化社会に

分権の推進、生活圏の拡大に対応したまちづくり、行財政基盤の強化の3点が主なものであったと認識している。

地方分権の推進では事務権限の移譲による市民サービスの拡充、生活圏の拡大への対応については交通体系の整備による移動時間の短縮やバス等の生活交通の確保、行財政基盤の強化では人件費、経常経費の削減や合併特例を活用した施設整備などが、合併の効果として挙げられる。

3地域の合併前後の状況については、平成22年の総合計画市民アンケートにおいて3地

対応した「災害に強いまちづくり」

- ・サテライトオフィス向けの空き家提供、新エネルギーの実験地域化の推進、体験型観光の振興等、「新しい雇用を生むまちづくり」
- ・需要のある体育施設の拡充を行い、スポーツによる交流人口の拡大を図る「スポーツツーリズムによるまちづくり」

災害に強いまちづくりは、都市計画マスタープランの目標にも掲げており、今後も防災や減災を考慮した、災害に強い

市長答弁

域とも「住みよい」という回答が合併時より増えており、住民意識の面では前進していると考えている。また、地域審議会や新市建設計画などは合併後10年を区切りとしており、今後、3地域それぞれについて調査分析を進めていく。

3地域別の今後の課題については、3地域とも合併後のさ

らなる住民の一体感の醸成が挙げられる。特に能生地域は地理的な要因等から一体感の高まりが弱いと感じられ、新公民館体制による地区公民館を核とした地域づくりや地域づくりプランの作成に合わせ、一体感の醸成を図っていく。

施設整備を進めていく。

新しい雇用を生むまちづくりについては、農商工の連携等、農林水産業を巻き込んだ異業種交流と連携により、糸魚川発のビジネスチャンスにつなげていきたい。

スポーツツーリズムによるまちづくりについては、利用者ニーズを把握したうえで、施設改修等を計画的に行うとともに、引き続きスポーツ交流と地域活性化を図っていく。

《その他質問項目》

- ・健康増進について
- ・電気自動車の普及策について

また、糸魚川地域、青海地域は、新公民館体制への移行が課題となっており、両地域においても地域づくりプラン作成等を契機に一体感の醸成を図っていききたい。

全市的な課題と対応策については、平成26年度末の新幹線開業を好機と捉え、課題となっている幹線交通網の整備や、ジオパーク戦略プロジェクトに基づいた受入態勢の整備などに取り組んでいく。

《その他質問項目》

- ・市施設のより有効な運用による市民活動の活性化について